

第二次霧島市総合計画(前期基本計画)総括シート

政策体系	政策No.	2	政策名	くらし(みどりあふれる快適で暮らし続けたいまちづくり)	施策幹事課					
	施策No.	1	施策名	人と自然が共生し快適で良好な生活環境の形成	環境衛生課					
計画期間(2018年度～2022年度)における施策の方針 (総合計画書から引用)					関係課					
環境学習・環境保全活動を積極的に推進し、市民や事業者の環境保全意識の向上を図るとともに、市民や事業者等と協働して自然環境の保全や形成に取り組むことで、山、川、海など多彩で豊かな自然環境を次世代に引き継いでいきます。					地域政策課、市民活動推進課、林務水産課、下水道工務課					
施策の方針に対する達成状況(2018～2022)			後期計画における課題							
<ul style="list-style-type: none"> 各種出前講座や環境学習会を通して、自然保護の重要性等について意識向上が図られた。 県や森林組合と連携して実施した、主に小学生を対象とした森林環境教育を通して、森林を守り育てる意識の醸成が図られた。 合併処理浄化槽への転換促進に努めたことにより、公共用水域の水質保全が図られた。 下水道整備を推進したことで整備面積が56.5ha拡大し、供用開始区域人口が3,215人増加した。 			<ul style="list-style-type: none"> 近年の環境問題の動向にあわせて、出前講座や環境学習会の内容の見直しが必要である。 森林環境譲与税を活用して、森林整備の促進を図る必要がある。市民全般に森林を守り育てる意識の醸成を図る必要がある。 公共用水域(河川)の環境基準達成率は上昇傾向にあるものの、海域を含めた良好な水環境を保全するためには、継続的な生活排水対策等の推進が必要である。 今後も下水道整備を計画的に進め、整備面積を拡大することで、供用開始区域人口の増に努める必要がある。 							
成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(100%以上) △目標を未達成(100%未満)								
		単位	目標達成の方向性	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	達成率 結果
A	自然環境が保全されていると感じる市民の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	74.0	76.0	78.0	79.0	80.0	91.0%
				実績値	-	-	-	-	72.6	△
B	生活環境が向上していると感じる市民の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	40.0	42.0	44.0	46.0	48.0	57.0%
				実績値	-	-	-	-	27.3	△
C	1～15年生(3歳級以下)の森林面積	ha	更なる増加を目指します	目標値	405	425	445	465	485	301.0%
				実績値	987	925	850	1,586	1,460	◎
D	環境基準達成率	%	更なる増加を目指します	目標値	76.1	77.1	78.1	79.1	80.0	
				実績値	76.2	75.6	74.4	75.1	R5.9月把握	
E	海域の環境基準(COD)達成地点数	地点	更なる増加を目指します	目標値	3	3	3	3	4	75.0%
				実績値	3	3	2	3	3	△
基本事業	5年間の取組内容			5年間の取組成果			後期計画における課題			
①自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護に関する各種出前講座(30回)や環境学習会(12回)を実施した。 県や森林組合と連携して、主に小学生に森林のはたらきや大切さ等を学習する環境教育を実施した。 市有林の下刈、間伐、皆伐・再造林等を実施し、適切な維持管理に努めた。民有林整備の促進を図るため、国県補助事業の対象事業に対して、市も一部助成を行った。 			<ul style="list-style-type: none"> 各種出前講座や環境学習会を通して、自然保護の重要性等について意識向上が図られた。 県や森林組合と連携して実施した、主に小学生を対象とした森林環境教育を通して、森林を守り育てる意識の醸成が図られた。 市有林や民有林の間伐等の森林施業により環境保全に繋がった。 			<ul style="list-style-type: none"> 近年の環境問題の動向にあわせて、出前講座や環境学習会の内容の見直しが必要である。 市民全般に森林を守り育てる意識の醸成を図る必要がある。 森林環境譲与税を活用して森林整備を啓発・促進し、環境保全を増大させる必要がある。 			
②大気・音環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 大気、悪臭、騒音、振動に関する相談(5年間で250件)が寄せられたときは、迅速な実態把握に努め、問題解決に取り組んだ。 鹿児島空港地域環境整備委員会における協議結果等を踏まえ、空調調機器の更新限度回数の拡大、社会福祉施設等騒音対策補助金の新設等を実施した。 			<ul style="list-style-type: none"> 相談に迅速に対応し、大気環境等の保全に努めることで、良好な生活環境の形成が図られた。 鹿児島空港周辺地域環境整備事業の充実を図ることにより、空港周辺地域の生活環境の改善が図られた。 			<ul style="list-style-type: none"> 良好な生活環境を維持するため、継続的な大気環境等の保全が必要である。 鹿児島空港周辺地域環境整備事業の実施を通じ、空港周辺地域の生活環境の向上に取り組むとともに、空港運用に関する住民の不安を解消するため、国・県と連携し、情報提供を強化していく必要がある。 			
③水環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 合併処理浄化槽のメリットや補助制度の周知を図り、単独処理浄化槽又は汲み取り便槽から合併処理浄化槽への転換促進に努めた。 下水道整備を推進し、整備面積を拡大することで供用開始人口の増を図った。 			<ul style="list-style-type: none"> 749基の単独処理浄化槽又は汲み取り便槽が合併処理浄化槽に転換され、公共用水域の水質保全が図られた。 下水道整備を推進したことで整備面積が56.5ha拡大し、供用開始区域人口が3,215人増加した。 			<ul style="list-style-type: none"> 合併処理浄化槽への更なる転換促進を図るとともに、維持管理等の重要性について周知する必要がある。 継続的な生活排水対策等の推進が必要である。 今後も下水道整備を計画的に進め、整備面積を拡大することで、供用開始区域人口の増に努める必要がある。 			
④生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性に関する出前講座(12回)や「霧島市生物多様性推進プラン」に掲げる重点施策の実施に取り組んだ。 			<ul style="list-style-type: none"> 出前講座やカワゴケソウの保全活動を通して、生物多様性に関する市民意識の向上が図られた。 			<ul style="list-style-type: none"> 開発に伴う自然の改変や森林・農地の荒廃等により、野生生物の生息・生育域の縮小、消失が懸念されているため、市・市民・事業者が協働して野生生物の保護対策を進め、生物の多様性を保全していく必要がある。 			
⑤環境保全意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座や環境学習会の実施に加え、地域の美化活動に積極的に取り組む団体や事業者の活動に対して支援を行った。 			<ul style="list-style-type: none"> 出前講座や環境学習会を通して、環境保全意識の向上が図られ、地域の美化活動に積極的に取り組む団体や事業者の活動に対して支援を行ったことにより、地域の環境美化と環境保全意識の向上が図られた。 			<ul style="list-style-type: none"> 更なる環境保全意識の向上を図るために、学校や地域等において、環境について総合的に学習できる仕組みづくりを行う必要がある。 			